

学位被授与者氏名	江川 遼太郎（えがわ りょうたろう）
論文題目	『ドリアン・グレイの肖像』における自己充足的生の完成 -自分自身であることの探求-
論文審査結果の要旨	<p>この論文はオスカー・ワイルドの生涯、彼の芸術観、そして『ドリアン・グレイの肖像』を中心に据えた作品解釈を通じて、19世紀末のイギリス社会の道德観とワイルドの芸術至上主義の関係を深く探究しています。論文はワイルドの作品とその時代背景に対する広範な知識を基に構築されており、彼の個人主義、芸術至上主義、社会主義の理念がどのように彼の作品に反映されているかを明確に示しています。この論文はワイルドの文学作品とそのテーマを深く掘り下げ、彼の道德観や個人主義の理念がどのように表現されているかを詳細に分析している。『ドリアン・グレイの肖像』を含む複数の作品を通じて、ワイルドが探求した美、個性、そして道徳的な問題を深く論じている。19世紀末のイギリス社会の文化的、社会的背景への洞察があり、ワイルドの作品が当時の社会規範や価値観にどのように挑戦したか、またそれが現代にどのように関連するかを示している。ワイルドの個人主義、社会主義、芸術至上主義といった多様な理念を一貫した論旨で統合し、彼の作品が持つ多層的な意味を明らかにしている。また、これらの理念が彼の人生とどのように結びついていたかも明確にしている。一方、本論文はワイルドの理念や作品に対して肯定的な評価を行っているが、批判的な視点や異なる解釈に対する考察が不足している。ワイルドの思想や作品に対する批判的な意見も考慮に入れることで、より均衡の取れた分析が可能となるように思われる。また、誤字脱字や形式の不統一も散見される。総評として、この論文はオスカー・ワイルドの作品とその時代を通じて、芸術と道徳の複雑な関係を探究するという難題に対して、非常に綿密で優れた分析をしており、修士論文として高く評価できる。</p> <p>2024年2月28日に、3名の審査委員により最終口頭試問を実施し、全員一致で、この論文を本学社会システム研究科学位（修士）請求論文として「合格」と判断した。</p>